作業発生の規則性を扱うモバイルカレンダ

平成25年2月15日 岡山大学 工学部 情報工学科 葛迫 祐介

研究背景

<スマートフォンの普及>

グループウェアを利用した予定管理があらゆる場面で可能

例:会議室で次回会議の予定を作成

スマートフォンでの予定の管理はユーザにとって手間が多い

<本研究の目的>

「作業発生の規則性」を扱うスマートフォン用カレンダAPの提案と実装



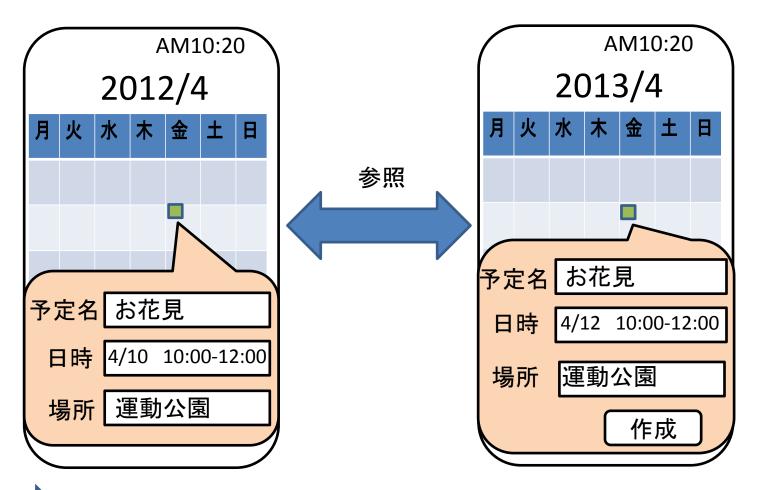
スマートフォンを利用した予定の管理を支援

<スマートフォンによる予定の管理の問題点>

- (1)画面の表示領域が狭い
- (2)文字入力操作が不便

画面の表示領域における問題点

過去のカレンダを参照して予定を立てる場合





文字入力操作における問題点

予定の作成、編集をする場合

スマートフォンの文字入力方法

- (1)ソフトウェアキーボードによる入力
 - ・画面の表示領域を大きく占有
 - キーボードのタッチ部分が小さいため操作しにくく不便
- (2)音声入力
 - •使用する場所や状況が制限される
 - 音声認識率が100%ではない

予定の管理において文字入力操作を必要とする場面が多い

文字入力操作が不便であることは予定の管理をするうえで負担

問題点に対する対処

(問題点1)画面の表示領域が狭い (対処)予定の管理に必要な表示情報を絞り込む.

(問題点2)文字入力操作が不便 (対処)文字入力操作の機会を減らす.

作業発生の規則性を利用した対処

<作業発生の規則性>

繰り返し発生する作業の集合を用いて作業の周期性を抽出



将来の作業発生の予測が可能

<対処>

(1)予測した予定を予測日に表示



過去のカレンダを参照する必要をなくす

(2)予測した予定のカレンダ登録時にテンプレートを提示



文字入力操作の機会を減らす



スマートフォン向けの作業発生の規則性を扱うカレンダAPの実装

アプリケーション利用例(1/6)



確定した予定が 登録されたカレンダ

アプリケーション利用例(2/6)



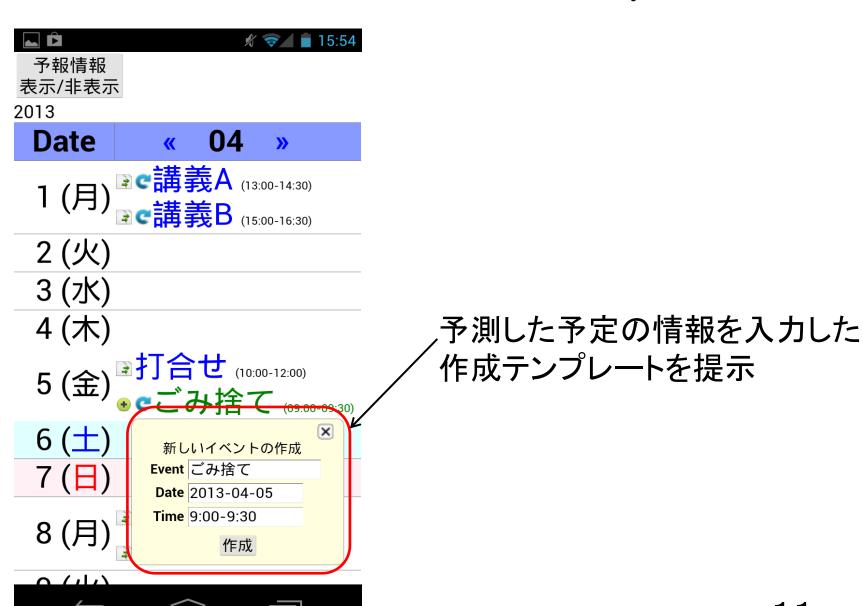
アプリケーション利用例(3/6)



アプリケーション利用例(4/6)



アプリケーション利用例(5/6)



アプリケーション利用例(6/6)



まとめ

く実績>

- (1)スマートフォンによる予定の管理について調査
- (2)スマートフォンによる予定の管理の問題点の提示
- (3) 既存のモバイルカレンダAPの調査
- (4)作業発生の規則性を扱うモバイルカレンダAPの提案
- (5)作業発生の規則性を扱うモバイルカレンダAPの設計
- (6)作業発生の規則性を扱うモバイルカレンダAPの実装

く残された課題>

- (1)評価方法の検討と評価
- (2)ユーザインタフェースの改良